

○編集・発行
練馬区民環境行動連絡会
練馬区石神井町2-14-1
石神井公園区民交流センター内
団体活動室
会長 大島 いずみ
URL: <http://nerima-kankyo.tokyo/>

○協力
練馬区環境部環境課
練馬区豊玉北6-12-1
電話 03-5984-4702

もっと! 青い空

巻頭インタビュー「この人に聞く!!」



事業活動・家づくりに再生可能 エネルギー利用100%をめざします!



石田 建一 積水ハウス(株)環境推進部長

100%再生可能エネルギーの利用を宣言する世界の企業（マイクロソフト、アップル等世界の企業）が加盟する「RE100」に日本企業として2番目に加盟表明をした積水ハウス。ZEH（*ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）の普及と2040年までに事業活動で消費する電力を100%再生可能エネルギーにすることをめざしています。その取り組みへのお話を伺うとともにネット・ゼロ・エネルギー・ハウスの見学に、積水ハウスのモデルハウスへ出かけて行きました。



(プロフィール)

1957年 東京都生まれ。
工務店の跡継ぎを期待され、親に反対されながらも大学へ進学。工学院大学大学院まで進む。85年積水ハウス入社。工学博士。

★気候変動への取り組み

—積水ハウスの考え方

積水ハウスは1960年に創立された住宅メーカーです。現在年間5万棟近くを建設し、売上は約2兆円。海外でも建設しています。そこで、世界の環境を考えた家づくりをしようと考え、環境戦略に取り組んでいます。

積水ハウスは家を買っていますが、それは「幸せな人生を提供する」ことだと思っています。「幸せな人生」とは言い換えれば、健康、快適、安心・安全を感じる家なのだと思います。そもそも温暖化により自然災害があってはなりません。また住まいは50年、100年の長きにわたりサポートする必要があり、積水ハウスは世の中に必要とされる企業となり事業を継続する必要があります。

—再生可能エネルギーへの取り組み

私たちは住宅とは「社会課題の中心だ」と考えています。だから少しでも社会が良くなるような事業活動をしよう。ネット・ゼロ・エネルギー・ハウスをつくり、温暖化の防止に貢献しようとするのも、そういう理念に基づいています。

世界では気候変動はエコではなく「社会安定への脅威」と考えられています。パリ協定にほとんどの国が賛成したのもこの為です。

化石燃料は有限だから大切に使うのではなく、パリ協定を守ろうとするとCO₂を排出できなくなるため、埋蔵量はあっても使えなくなると考えるべきだと思います。

また、現在世界的には再生可能エネルギーのほ



うが化石燃料より安いのです。企業としては安いほうを選択するのは当たり前です。

★積水ハウスの環境未来計画

一脱炭素宣言

2008年洞爺湖サミットが開催されました。積水ハウスは、この時までにもごみのリサイクルや在来種を庭木にしようといった「5本の樹〈3本は野鳥に2本は蝶のために〉」計画の提案などに取り組んできました。サミットで具体的なCO₂の削減目標が提案されたので、住宅分野で「脱炭素宣言」をしました。日本の企業では初めてのことだと思います。

昨年、新築のネット・ゼロ・エネルギー・ハウスは、CO₂の削減が76%になりました。また、事業用のエネルギーを全て再生可能エネルギーにするという「RE100」宣言をしました。

一ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス

住宅は居住時にエネルギー排出が多いので、そこを減らそうと考えました。まず、断熱性を高めて、冷暖房を使う頻度を減らします。冷暖房の使用はゼロにはならないので、省エネ機器を使用し、残った必要エネルギーを太陽光発電などで補おうという考え方です。

積水ハウスの特徴は瓦型太陽光発電パネル、屋根で一体感を持たせています。また、省エネのためには窓は小さいほうがいいですが、家というのは周囲との一体感があってこそ楽しい暮らしだと考え、大きな窓の家を提案しています。

人は省エネのために暮らしているのではなく、楽しい暮らしを求めて家を建てるので、その家の暮らしにあった設計提案をしています。

家庭用燃料電池も48,000台売っています。なぜなら再生可能エネルギーの使用を増やそうとしているからです。日本は四季があり、どうしても日照の弱い時期があります。季節変動のような長時間の変動に関しては電気を水素に変換し安定化させるなどの対策が必要です。ネット・ゼロ・エネルギー・ハウスは、CO₂を2020年に80%削減すると目標に掲げていますが、もう少し早くに達成できると考えています。

これからは賃貸住宅にも省エネハウスで太陽光発電を設置したいと考えています。マンションは



低層しか設置できませんが、大阪では家庭用燃料電池を全住戸に設置したマンションを販売しています。

★さらに広げる、再生可能エネルギー

一スマート防災エコタウン

「東松島市スマート防災エコタウン」を創りました。2017年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰 (対策技術先進導入部門)、2018年地球環境大賞を受賞しました。東松島は津波の被害にあった所です。配電を電力会社ではなく、街の配線にし、太陽光発電の電力を固定価格買い取り制度 (FIT) で売らず、自営線により電力の地産地消と、地震国日本で停電しない街、地方の活性化をめざしています。

試算では年間100万円ほどが街に入り、雇用も創出できます。

一RE100 (100%再生可能エネルギーの利用)

積水ハウスは2040年を目標に「RE100」を宣言しました。当社は、これまでに650MWを超える太陽光発電を供給販売し、事業活動において120GWhの電力消費しています。2019年度からFIT制度が順次終了するため、太陽光発電を搭載した住宅のオーナー様の余剰電力を当社が事業用電力として購入することで、オーナー様のメリットも創出します。

世界のトップ企業のアップルやグーグルが「RE100」を宣言し、今後それに賛同する企業が世界的に増えると予想されます。その時、「RE100」の取り組みがない企業が世界の企業と取引ができなくなるかもしれません。そういった先を見据えて再生可能エネルギーを考えています。

*ZEH (ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)

大幅な省エネルギーを実現したうえで、再生可能エネルギーを導入することにより、年間の一次エネルギー消費量の収支がゼロとなる住宅。

(聞き手：大島 いずみ)

地域のみどりは、子ども達の原風景

特定非営利活動法人みどり環境ネットワーク！
事務局長 村田 千尋

●特定非営利活動法人みどり環境ネットワーク

「みどりと人と地域をつなげる」をコンセプトに、区内の緑地を活用して2002年より自然環境教育事業を中心に活動しています。



私(村田)と「森のようちえん」での子ども達

2003年に法人化し、会員は現在約50名。造園や教育の専門家と共に、地域で活動する区民有志等が集まり今日に至ります。

●変わりゆく練馬のみどり

私は、練馬に移り住んで十数年になります。決して長くはありませんが、その十数年でも地域のみどりを取り巻く環境が大きく変わっていることを実感しています。

宅地化等により姿を消すみどりはもちろんのこと、落ち葉や虫の発生等により邪魔者扱いされるみどりもあります。



「森のようちえん」で「練馬の木と友達！」

都市のみどりを残すためには、所有者だけでなく、地域に住む人々の関心や愛着が不可欠だと感じています。

●週末イベント型「森のようちえん」

そこで昨年からは始めたのが、週末イベント型による「森のようちえん」です。

区内の公園、農園等を会場に、練馬のみどりを親子で体感し、楽しむプログラムを提供しています。

みどりと親しむことで、みどりを愛する次世代を育成していけたら、と思っています。

現在、先生を随時募集中です！

「地域のみどりは、子ども達の原風景」です。一緒に育んでいきましょう！！

練馬区民の環境活動の場

練馬区民環境行動連絡会
会長 大島 いずみ

●環境活動へのきっかけ

私が環境に関わったきっかけは、平成3年、フリーマーケットを企画・実施したことです。バブルが弾けた時期だったので、使われない新品ばかりが山のように出てきていました。こんなにモノを無駄にする生活をしていたら、私達の将来に何か良くないことがあるのではないかと考えたのが始まりです。その後、環境のことを学び、環境に関わる分野が多岐にわたることを知りました。



大島いずみさん

●行動連絡会のルーツ

平成14年12月、練馬区の呼びかけで、地域環境や地球環境の保全のために区民・事業者がどのような取り組みを進めたらよいかについて考える「練馬区民環境行動方針検討会議」が結成されました。総勢94名の検討委員が、ひとつひとつ議論し、合意しながら、約1年8か月をかけて「練馬区民環境行動方針」を手作りで作成しました。

そのうち、22事例をプロジェクトとして提案し、その中のいくつかの取り組みについては区が積極的に取り入れ(エコライフチェック、逆引ごみ辞典等)、会議のメンバーがプロジェクトごとにグループを平成17年に立ち上げ、その連絡組織が「区民環境行動連絡会」です。

●練馬区民環境行動連絡会のいま

各グループは、それぞれのイベントや全体で行う講演会の際には協力しあって活動をしています。プロジェクトを地道に進めているグループ、少し伸び悩んでいるグループなど様々ですが、一歩ずつ前に進むのを行動連絡会の皆が応援しています。

行動連絡会は、何か環境行動をしたい個人、団体の参加もOKです。参加すると仲間づくりができますし、自分のやりたいことが実現できるかもしれません。区民がいつでもどこでも参加でき、区と協働で環境行動が実践できる良さがあります。

●皆さんにお願いしたいちょっとしたエコ

ごみを減らす、省エネルギー製品を選ぶ、節水に心掛けるなど、ちょっとした行動や意識が少しずつ積み重なることで、良い地球環境が未来につながります。

「皆さん、環境の入口は身近なところに結構ありますよ」明るくお話をされた、大島さんです。

(聞き手：関口 一成)



地域でとくむ省エネ・創エネ

自然エネルギー拡大の仕掛け人に学ぶ

世界でも日本でも、企業や自治体が自然エネルギーで電力を100%まかなう動きが高まっています。アップル、グーグルなどの大手企業が世界をリードし、日本でもリコー、積水ハウス、イオン、城南信用金庫などの企業が、熱心にプロジェクトを進めています。

なぜ自然エネルギー100%をめざすのか、どのような道筋で実現していくのか、そして私たち市民にできることは何なのか。自然エネルギー拡大の最前線を走る専門家2名より、わかりやすく、面白く、お話いただきます。お気軽にご参加ください。

講師 田中 信一郎 氏

(一社)地域政策デザインオフィス 代表理事

真野 秀太 氏

みんな電力株式会社事業開発部 部長

日時 平成30年9月9日(日)
午後2時～4時

会場 練馬区役所本庁舎 地下多目的会議室

定員 100名(事前申込制・先着順・参加費無料)

講師プロフィール



田中 信一郎 氏

横浜市役所職員として「環境モデル都市」の企画に参画。2011年より長野県庁にて地域エネルギー政策、地球温暖化対策等を担当。難しい内容をわかりやすく伝える講演に定評がある。



真野 秀太 氏

練馬区石神井在住。三菱総合研究所、自然エネルギー財団研究員を経て、SBエナジー株式会社で自然エネルギー発電事業の現場に携わる。2017年よりみんな電力株式会社にて、自然エネルギーを中心に据えた「顔の見える電気」の普及に尽力。

【申込方法】

ハガキまたはFAX、電子メールで

- ①講演会名
- ②住所
- ③氏名(ふりがな)
- ④電話番号を明記のうえ、平成30年9月3日(必着)までにお申し込みください。

【申込先】

〒176-8501 練馬区豊玉北6丁目12番1号

練馬区役所本庁舎18階 環境課環境計画推進係

電話：5984-4702 FAX：5984-1227

メール：kankyoku02@city.nerima.tokyo.jp

主催：練馬区民環境行動連絡会・練馬区環境課

《お願い》-「もっと!青い空」の充実にご協力を!-

「練馬区民環境行動連絡会」は区民・事業者が策定した「練馬区民環境行動方針」に提案されたプロジェクトを具体化するため、平成17年4月に結成された組織です。練馬区の支援を受け、環境にやさしい取り組みや環境に配慮した生活を進めるために活動しています。

当会の活動報告と皆さんが身近でできる環境行動について、年2回発行の機関紙「もっと!青い空」で提言しています。さらに充実した内容とするため、下記のご協力をお願いします。

①「巻頭インタビュー」で取り上げて欲しい方 ②練馬区内で先駆的な環境活動や実践をされている個人、企業、団体のご紹介、または情報をお知らせください。編集会議で検討のうえ、取材に伺います。

連絡先：練馬区石神井町2-14-1 石神井公園区民交流センター内団体活動室・練馬区民環境行動連絡会
電話・FAX：03-3996-6351 URL：<http://nerima-kankyo.tokyo/>